

Ⅱ. 研修別報告

4. 養護教諭のスキルアップと 養護教諭像の醸成を目指した学びの会

養護教諭のスキルアップと養護教諭像の醸成を目指した学びの会

キーワード： 養護教諭 スキルアップ 現職教育

I. はじめに

養護教諭には、学校という場でその職務を遂行するための様々な能力が必要とされる。養護教諭は、各学校に一名の配置である場合が多く、その職務内容は、校種、勤務学校の規模などにより大きく異なる。さらに、法制度の改正、時代のニーズにより職務内容を変えることや、国・県の方針を意識することも求められる。職務を遂行する過程で生じる課題について、小中学校では、近隣校との交流の機会（地域の養護教諭部会など）があるが、高等学校では、こうした機会も少ない。さらに高等学校では、生徒の生活地域は広域となり、扱う健康問題等も複雑になるため、より一層、相談者を得にくく、悩みや葛藤の共有も難しい状況となっている。このように、養護教諭が職務遂行において抱える悩みや葛藤は多様であり、さらにそれらを他者と分かち合うことや、十分な経験を持つ養護教諭への相談ができていく現状がある。

岐阜県において養護教諭に対する現職教育としては、新規採用研修・6年目研修・中堅教諭等資質向上研修が行われているが、一般教諭の研修に比べ研修回数等が少ないことや、指導養護教諭が身近にいない状況での研修になっている。職務遂行において抱える悩みや葛藤、課題の解決が研修の場だけでは解消できていないのではないかと考えられる。本学においても、卒業者交流会が開催されているが、養護教諭の卒業後支援には養護教諭の職務事情、養護教諭の悩みや葛藤に特化したディスカッションや、ベテラン養護教諭からの助言、そしてネットワークづくりまで視野に入れた支援が必要であり、現行の卒業者交流会では各々の課題を解決するまでには至っていない現状がある。

また、新規採用後、養護教諭としての経験を一通り終えた卒業後4～6年目にあたる時期には、異動による職務変化を経験する時期であり、自身の養護教諭像を模索し始める時期でもある。この時期、各養護教諭にはスキルアップや、目指す養護教諭像の再検討が求められる。しかし、養護教諭自身に向上意欲があっても、前述した養護教諭の職務の特性から、スキルアップにつながる方法が見出せず、自分が描く養護教諭像を定めにくい現状がある。その結果、向上意欲の低下や、養護教諭の魅力さえも見失う場合も生じている。

これらのことから、卒業後1～6年目となる養護教諭が、職務における悩みや葛藤を話し合い、またベテラン養護教諭の助言・講義を受けることで、自分自身の課題と今後の目標を見つけ、より広い視野で養護教諭の在り方を検討する機会とし、現職教育の充実にもつなげたい。

II. 事業担当者

本事業は、以下の教員で実施する。

育成期看護学領域：亀山 智加枝 機能看護学領域：松本 訓枝

III. 事業（研修会）の企画：養護教諭学びの会の開催

1) 目的

卒業後1～6年目となる養護教諭が、職務における悩みや葛藤を話し合い、またベテラン養護教諭の助言・講義を受けることで、自分自身の課題と今後の目標を見つけ、より広い視野で養護教諭の在り方を検討する機会とする。それにより、養護教諭としてのスキルアップに向けた意欲を養う。また将来的には、自主的な勉強会等へと発展することを目指す。

2) 対象

経験年数1～6年目の養護教諭。希望があれば、卒業校・経験年数に関わらず参加可能とする。本学の卒業生を含む、経験年数1～10年目程度となる養護教諭を対象に実施案内を送付し参加者を募る。今年度は県内全域に案内を送付する。

3) 開催場所

1回目：Zoomを使用したオンライン

2回目：本学での開催及びZoomを使用したオンライン

4) 開催回数

年2回 1回3時間程度

本学を会場として、学びの会を2回開催する。参加の有無について返信を依頼し、その際、職務に関する感想（悩み・葛藤を含む）、今後学びたいことを募集する。研修時間は1回あたり3時間程度とする。実施内容は以下に示す。

① 自己紹介

② ベテラン養護教諭の講話

- ・卒業後1～6年目養護教諭の悩みや葛藤に関わる具体的な実践内容。
- ・ベテラン養護教諭が実践の中で培った養護教諭としての理念。

- ③ 悩みや葛藤、解決の方法等についてディスカッション。
グループ編成は2通りとする。
 - ・経験年数ごとに分かれた養護教諭とベテラン養護教諭、大学教員によって構成する。
 - ・経験年数混在（ベテラン養護教諭含む）養護教諭、大学教員によって構成する。
- ④ 終了後アンケートを実施し、本会参加の感想、本会参加による仕事への意欲の変化、本会への希望などについて意見を集める。
- ⑤ 教員とベテラン養護教諭で学びの会の成果や今後の方針について意見交流する。
- ⑥ 評価：参加者による終了後のアンケート・ベテラン養護教諭との振り返りにより評価を行う。

IV. 研修会の実施方法・内容・結果

1. 実施方法・内容

1) 第1回 開催日時：令和3年8月28日（土）13：20～16：30

13:00～13:20 オンライン接続確認

13:20～13:30 開会

13:30～15:00 講話

○テーマ 養護教諭のスキルアップとネットワークづくりを目指して

「私の実践～涙も失敗も糧にして、学ぶ・楽しむ～」

講師 白川村立白川郷学園 養護教諭 野島 友紀 氏

「チーム学校に健康づくりの渦をつくろう」

講師 山県市立桜尾小学校 養護教諭 高井 かおる 氏

15:10～16:20 オンラインミーティング

グループディスカッション・まとめ

2) 第2回 開催日時：令和3年12月11日（土）13：20～16：30

13:00～13:20 オンライン接続確認

13:20～13:30 開会

13:30～14:40 講話

○テーマ：校種の異なる経験から養護教諭の在り方を考える

「ヒヤリハットの経験から行ったアレルギー対応訓練」

講師 関市立武芸川中学校 養護教諭 松田 香織 氏

「特別支援学校における保健室の在り方～私が大切にしていること～」

講師 岐阜市立岐阜特別支援学校 養護教諭 小里 華苗 氏

14:50～16:20 交流会・オンラインミーティング

グループディスカッション・まとめ

2. 研修会の実施結果

1) 参加者の状況

平成28年度から令和3年度までの参加者数を表1に、令和3年度参加者数の校種・経験年数別参加者数及び本学卒業者の参加者数を表2、表3に示す。（講師・ファシリテーター等も含む）

表1 養護教諭学びの会参加者数(平成28～令和3年度)

人

		合計	1～3年	4～6年	7～9年	10年以上
平成28年度	第1回	16	7	5	1	3
	第2回	25	16	5	2	2
平成29年度	第1回	16	5	2	2	7
	第2回	17	6	6	3	2
平成30年度	第1回	22	8	11	3	0
	第2回	24	11	3	4	6
令和元年度	第1回	19	3	7	5	4
	第2回	25	6	7	5	7
令和2年度	第1回	21	7	4	2	10
	第2回	16	3	1	5	7
令和3年度	第1回	21	5	6	4	6
	第2回	13	4	2	1	6

表2 令和3年度 第1回養護教諭学びの会参加者数 人

	合計	1～3年	4～6年	7～9年	10年以上
小学校	13(5)	3	4(2)	4(3)	2
中学校	0				
義務教育学校	2		1		1
高等学校	1				1
特別支援学校	2	2			
その他	1(1)		1(1)		
教育委員会	2				2
合計	21(6)	5	6(3)	4(3)	6

表3 令和3年度 第2回養護教諭学びの会参加者数 人

	合計	1～3年	4～6年	7～9年	10年以上
小学校	6(3)	4(3)	1		1
中学校	1				1
義務教育学校	0				
高等学校	3		1	1	1
特別支援学校	1				1
教育委員会	2				2
合計	13(3)	4(3)	2	1	6

*合計（ ）内の数字は、本学卒業者の参加人数

3. 参加養護教諭の評価

1) 第1回

- (1) 今回の研修会のテーマについて
よかった (100%)
- (2) 研修プログラムについて
よかった (100%)
- (3) 参加方法 (オンライン) について
よかった (100%)

2) 第2回

- (1) 今回の研修会のテーマについて
よかった (93.3%) ふつう (6.7%)
- (2) 研修プログラムについて
よかった (93.3%) ふつう (6.7%)
- (3) 参加方法 (大学での開催・オンライン) について
よかった (93.3%) ふつう (6.7%)

4. 参加養護教諭の意見・感想

1) 第1回

○ベテラン養護教諭の講話

- ・保健室経営計画を作成し、周りを巻き込みながら願う子どもの姿に少しでも近づければと思った。
- ・養護教諭の仕事は、自分の工夫次第で、子どもの健康を守ることも楽しむことも無限大であると感じた。
- ・自分の学び、そして子どもたちの笑顔と健康を守っていくために、参加し続けていきたいと思える時間だった。
- ・若い先生方、ベテランの先生方、それぞれからいろんな学びとエキスをいただいた。
- ・先生方の様々な実践を聞いて、ヒントとなることをたくさん学ぶことができた。しかし、いざやろうとすると、どうしても1歩を踏み出せなかったり、分からなかったりすることが多い。自分一人でやろうとするのではなく、校内の先生や同じ市の養護教諭、先輩養護教諭、または違った職種の方と上手につながって、実践を積み上げていきたい。

○交流会

- ・オンラインで交流ができてよかった。人数も全員が何度も話すことができる人数でよかった。

- ・若手の先生方の悩みや困り感をみんなで共有することができた。今後に生かしたい。
- ・講師の話聞いた上で、グループでディスカッションでき、考えを共有することができた。
- ・言葉にすることによって、自分の不安や養護教諭になってどう頑張りたいか、改めて再確認することができた。
- ・マイクが使えなかった。(自宅からの参加者)
- ・グループ交流の時間がもう少しあるとよかった。
- ・交流会の人数がもう少し多いと色々な話が聞けると思った。

○研修の機会

- ・いつもこの会で繋がりを感している。それを若い先生方につなげていくことが私たちの役割と思っている。

2) 第2回

○ベテラン養護教諭の講話

- ・中学校、特別支援学校の先生の実践をお聞きして、それぞれの校種に合った工夫をされてみえることがわかった。校種は違うが、小学校にも生かせることはたくさんあったため、ぜひ活用させていただきたい。
- ・二人の先生からお話をいただき、自校に持ち帰り検討したいと思ったことが多くあった。特にヒヤリハット経験から研修につなげたお話では、なかなかヒヤリハットがあってもその場で自己反省するだけになりがちだが、学校として先生方と一緒に考え、対応することで意識も高まるのだと学ぶことができた。特別支援学校のお話からは、校種に関わらず個人に合わせた対応が子どもたちの安心につながるのだと感じた。
- ・1年目で、上手くできなかった事や、養護教諭とは何だろうと考えることが多くあったので、他の先生方のご経験や思いから学べることがあるといいなと思い参加させていただいた。二人の先生方のご実践からは、自分も活用したいと思うアイデアやツールを学ぶことができた。また、「子どもたちの健康・安全を守るためにできることを」と働く先生方の姿や、自分の失敗談も含めてお話いただいた他の先生方の経験談から、自分も失敗を含めて色々な経験を糧にして様々な事に挑戦していきたいなという勇気をいただけた。
- ・ベテランと言われる年齢ですが、参加するとやっぱり学びがしっかりあって、新しい視点を示唆していただけた。

○交流会

- ・小グループでの交流では、各学校の様子や、ヒヤリハット事例を交流できたことが、とても学びになった。普段養護教諭の先生方と交流する機会はなかなかないため、今日はとても貴重な時間となった。
- ・大学で参加させていただいて、あっという間の時間だった。去年、コロナ禍で養護教諭をスタートしたが、辛かったなと思うことは唯一、他校の先生とのつながりを作るのが難しかったことだった。このような会に参加できることがとても嬉しい。
- ・学びの多い機会をいただいて感謝している。事例やベテランの先生との交流など贅沢な時間を過ごさせていただけた。校種の違う先生とお話しできたのもよかった。

V. 成果

1. 看護職の研修としての有用性について

1) 養護教諭学びの会参加者のニーズに合わせた学びの提供

令和3年度の研修内容について検討する段階では、今求められている「チームとしての学校における養護教諭の役割」や「食物アレルギー対応」について、また、いつの時代にも変わらないニーズである「学校救急処置」を取り上げ、養護教諭の在り方を交流していくこととした。

講師には事前に連絡し、自身の困難に感じた点や改善方法などを含め、具体的に話していただくよう伝えたことで、若手の意欲が高まるよう講話内容を工夫していただけた。

交流会についても、講師やファシリテーターに事前に連絡し、若手の養護教諭が安心して話せる雰囲気や、交流を通して解決策を見出せるような進捗を依頼したことで、交流会の充実につながった。

2) 学びの内容

参加者の意見や感想から、学びの内容を【養護教諭の職務の振り返り】【養護教諭としてのスキルアップの必要性】【養護教諭像の醸成】【ベテラン養護教諭の実践からの理解】【スキルアップにつながる学び】に分類した。詳細を表4に示す。

表4「養護教諭学びの会」学びの内容

	学びの内容
養護教諭の職務の振り返り	<p>先生方の様々な実践を聞いて、ヒントとなることをたくさん学ぶことができました。しかし、いざやろうとすると、どうしても1歩を踏み出せなかったり、分からなかったりすることが多いです。自分一人でやろうとするのではなく、校内の先生や同じ市の養護教諭、先輩養護教諭、または違った職種の方と上手につながって、実践を積み上げていきたいです。</p> <p>言葉にすることによって、自分の不安や養護教諭になってどう頑張りたいか、改めて再確認することができました。</p>
養護教諭としてのスキルアップの必要性	<p>「子どもたちの健康・安全を守るためにできることを」と働く先生方の姿や、第二部で自分の失敗談も含めてお話いただいた他の先生方の経験談から、自分も失敗を含めて色々な経験を糧にして様々な事に挑戦していきたいなという勇気をいただきました。</p>
養護教諭像の醸成	<p>養護教諭の先輩方のお話から、養護教諭の仕事は、自分の工夫次第で、子どもの健康を守ることも楽しむことも無限大であると感じました。</p> <p>自分の経験を生かして工夫していくことや、子どもから学びながら自分も養護教諭として成長していくのだということを感じました。</p>
ベテラン養護教諭の実践からの理解	<p>中学校、特別支援学校の先生の実践をお聞きして、それぞれの校種に合った工夫をされてみえることが分かりました。</p> <p>ヒヤリハット経験から研修につなげたお話では、なかなかヒヤリハットがあってもその場で自己反省するだけになりがちですが、学校として先生方と一緒に考え、対応することで意識も高まるのだと学ぶことができました。</p> <p>特別支援学校のお話からは、校種に関わらず個人に合わせた対応が子どもたちの安心につながるのだと感じました。</p> <p>児童生徒への対応や職員研修の内容を具体的に学べて良かった。周知する、クールダウンさせる、それぞれに方法がいろいろあり、自分にない視点を知ることができて視野が広がった。</p> <p>エピペンの使い方の研修のみでなく、教職員間の連携の仕方や保護者への連絡の仕方など、一連の流れとしての研修の必要性を感じました。</p> <p>特別支援学校のお話では、先入観にとらわれすぎないというのにすごくドキッとしました。目の前の情報をアセスメントして、対象者を捉えられるようにしたいです。</p>
スキルアップにつながる学び	<p>保健室経営計画を作成し、周りを巻き込みながら願う子どもの姿に少しでも近づければと思いました。</p> <p>先輩方のお話をお聞きした上で、グループでディスカッションをすることができ、考えを共有することができました。</p> <p>若手の先生方の悩みや困り感をみんなで共有することができ、今後に生かしたいと思います。</p> <p>校種や年齢関係なく、ネットワークをつくることができたことや新しい発見がありました。</p> <p>校種は違いますが、小学校にも生かせることはたくさんありましたので、ぜひ活用させていただきたいと思います。</p> <p>先生方のご実践からは、自分も活用したいと思うアイデアやツールを学ぶことができました。</p> <p>ベテランと言われる年齢ですが、参加するとやっぱり学びがしっかりあって、新しい視点を示唆していただけます。</p> <p>AED とエピペンをつないでシミュレーション訓練をされたことがとても勉強になりました。実際には別々に行われることはないのですが、実際の場面を想定した訓練の大切さを感じました。勤務校でも実態に合わせて行ってみたいと思いました。</p> <p>小グループでの交流では、各学校の様子や、ヒヤリハット事例を交流できたことが、とても学びになりました。</p>

3) 研修テーマ・研修内容の評価

研修テーマ・研修内容については、多くの参加者から「よかった」という評価を得ており、学びの内容としては、【スキルアップにつながる学び】の分類が多く寄せられた。また、勇気や意欲がもてたという感想もあり、若手の養護教諭の向上意欲につながる内容であったといえる。

交流会については、時間を十分確保し、意図的にグループ構成したり、少人数にしたりしたことで、参加者の困り感や疑問点の解消につながった。また、交流会をとおして参加者同士のネットワークが広がったことで、次年度への参加につながっていくと期待される。

2. 参加看護職の意見と成果

講師の講話を通して、保健室経営の在り方、児童生徒の実態に合わせたかかわり方、教職員研修の在り方等、職務の具体を学ぶことができたといえる。また講師自身が経験してきた失敗や悩み、その解決方法を聞くことで、若手の養護教諭の勇気や意欲につながり、自らが理想とする養護教諭像を思い描く機会となった。参加したベテラン養護教諭についても、ネットワークができたことや、新たな学びがあったという感想があり、養護教諭同士がつながる場を必要としており、常に養護実践上の課題意識を持ち続け、学校保健の中核を担う養護教諭を真摯に求め続ける姿を垣間見ることができた。

VI. 教員の自己点検評価

1. 実践の場と与えた影響

養護教諭学びの会で実践のヒントを得たことで、勤務校でも実態に合わせて行ってみたい、生かせる実践を活用していきたくという意見があった。自身の職務内容の充実に向けて主体的に考え改善していく意欲につながったと推察される。

2. 本学の教育・研究活動と与えた影響

養護教諭の学びを知ることは、基礎を形成する上での大学教育と実践をつないでいくための学修の在り方を考えるうえでの貴重な機会となった。また、卒業後の支援につながり、広く現場の養護教諭との関係を作るうえでも有意義であった。

3. オンラインでの研修における評価と課題

マイクが使えない参加者が一部いたものの、昨年度に比べ、オンライン研修に抵抗なく参加できる参加者が増えたことで、接続や音声等の問題はほとんどなくスムーズに実施できた。また、2回目は感染症の流行が落ち着いていたため、大学での受講も可としたことで、オンラインに抵抗感を感じる参加者は大学で受講していただけた。今後も、参加者が参加しやすい方法が選択できるようにしていくとよいと考える。

VII. 今後の課題、発展の方向

養護教諭に特化した本事業を実施することの意義は大きい。参加者自身が、実践の省察と同職種からの評価を得ることによって生まれる達成感や満足感は、スキルアップや養護教諭像を醸成するために必要なことだと感じる。今後も、岐阜県が示す育成指標に基づき、各育成段階の養護教諭像を、参加者と討論しながらさらに養護教諭像の醸成を目指していく。